

# かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川異業種グループ連絡会議 理事(事務局長) 芝 忠

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センター5F

TEL045-633-5142 FAX045-633-5194

Email: [zan25564@nifty.com](mailto:zan25564@nifty.com) <http://www.kanagawa-iguren.com>

目次 1/4ページ:全国異業種交流大会に思う、2/4ページ:産学官交流サロン他、3/4ページ:プロジェクトの状況  
4/4ページ:主張“美しい国日本の敵”、地球環境への憂い“イースター島の悲劇”

## 論評

### 全国異業種交流大会に思う(熊本大会とINF神戸大会に参加して)

芝 忠

最近、2つの異業種交流大会が相次いで開催され、合わせて1,500人が参加、現在の異業種交流に対する関心の高さを示した。1つは10月10日、熊本市で開催された「2006異業種交流・新連携フォーラム九州大会inくまもと」。もう1つは11月02日、神戸市で開催された「全国異業種グループネットワークフォーラム第7回全国大会inKOBE」で、どちらも700人以上の参加者があった。各大会の詳細報告は島津俊之・池谷明彦両ビジネスコーディネータに譲るとして、私は両大会の比較について触れたい。

先ずゲスト講演は熊本が高校サッカーの雄、熊本県立大津高校サッカー部監督平岡和徳氏、神戸がプロ野球の元阪神・中日監督の星野仙一氏とスポーツの第1人者を起用した。両氏とも、ひとづくりの話で、経営者にも合い通じるもので、内容はそれぞれ大変面白かったが、それはそれとしても、異業種交流大会の「人集め」の感が否めない。東京で全国大会の特別講演等で良くあることだが、正攻法とは思えない。

さて、**熊本大会**は「**もっこす精神・わさもん気風が世界にはばたく、“知と動”九州・明日への絆**」というのを副題として開催されたが、「もっこす精神」とは意地っ張りな古いものも大切に、一方「わさもん」とは「新しもの好き」で、その気風で国際化にも対応という意味である。オール九州大会として行われたが、昨年大阪で開催された全国大会の流れを汲んだもので、全国12都府県からの参加者があったが全国的な広まりはまいちというところ。

分科会は4つで、①経済活性化に向けたアジア戦略②新連携③地域育成型事業④産学連携グループマッチング。アジア戦略分科会では、特に中国などの場合失敗例が多く、結局良い人脈にぶつかってから安定したという報告。第4分科会で農業問題が取り上げられ、農業の重要性・可能性・地域性・多様性が論じられ、消費者との交流、他業種との交流の意義が強調された。また九州地域の特性として、東京へ向いているときは発展しない、海外(アジア)へ向いているときは発展する、という意見には注目した。九州一体論だ。次回は大方での開催が決まった。

一方、**神戸大会**は、「**価値創造の港、復活・改革・自立への挑戦**」と題して開催。阪神・淡路地震からの復活をイメージしたもの。実行委員長として、当時の県知事、貝原俊民氏が問題提起し、「植物や動物が他種類と交配しながら多様化する『熱帯雨林型』の産業構造」を日本は目指すべきだとしました。そして米国シリコンバレー型の「ネットワーク活用による新しい付加価値を生み出す工夫」を強調した。

分科会は、熊本大会より多く8つ。①IT経営先進企業と価値創造経営②港町ネットワーク③中国ビジネスと人との交流④デザイン・ものづくり・復活⑤産学官民の連携による街づくり・地域づくり⑥地域環境を守る企業の取り組み⑦これからの企業のありかた - 第二希業(字の間違えではない)⑧神戸をウェディングの街に。第7分科会ではアウトソーシングの問題が取り上げられ、アウトソーシング会社が単にアウトソーシングを行うのではなく、依頼企業側に「どの部門でアウトソーシングをすれば最も効率が良いか」までを提案していることが注目された。第2分科会では、幕末開港の5港(函館・横浜・神戸・新潟・長崎)に苦小牧が加わって、海運の再評価、アジア・ロシアとの交流、相互交流による啓発などが語られた。観光船は白、貨物船は黒、街の賑わいは平和産業による観光でとか、面白い指摘が相次ぎ、次回の札幌大会まで、港町ネットワークを発展させることが合意された。

全体会議で、INF代表の南出健一氏(神奈川異グ連議長)が「INF10年の歩み」を報告し、「草の根運動とゆるやかな連携」を強調し、地域の掘り起こしを行ってきた。川崎・盛岡・新潟・東京都北区・愛媛県今治・金沢・神戸とランダムに開催されてきたが、開催地域をどれだけ広げられるかが今後の鍵。参加者は29都道府県からと広域にわたっており、全国大会らしい取り組みだった。

両大会を通して、やはり分科会が異業種交流大会の中核で、参加者相互の多面的な意見交換が重要だと思った。新しい出会いの“場”をどう継続するか、一過性の感激に終わらせないで、継続的交流の組織化が重要。大会開催の都度、新しいメンバーが増えているINF大会では、日常的交流をメール交換により徐々に組織化されている。少しずつ中核メンバーが拡大されつつあることは非常に重要。九州地域もそれなりのネットワークはあるのだろうが、従来の形式的持ち回り大会とは異なる、ネットワーク拡張型の九州路線が確立すれば良いと思う。四国のように数が少なく、まとまりそうに見えて、なかなか纏まらない(?)地域もあるが、九州も福岡中心ではない、新たなネットワーク構築が期待される。

それにつけても、懇親会の終了後もネットワーク形成を図ろうとするINF大会の努力は評価される。大抵、懇親会でそのまま解散してしまい、その後が続かない。終了後、他地域の参加者も含めて何らかの総括的な考え方の交流と、次回取り組みへの企画等、意見交換の場が重要だ。既成の異業種交流大会日程の再検討が必要だろう。

**“2006異業種・新連携フォーラム**

**九州 in 熊本“、出張報告 島津俊之BC**

基調講演は大津高校サッカー部監督・平岡先生の「スポーツで人を作る」～年中夢求～で、死に物狂いの努力は人を裏切らない、と2時間余り熱演し、強調されていました。私も一生夢求で余生を過ごしたいと思った次第です。

次に私の参加した「地域育成型事業」分科会は子育て、医療・介護、観光を取り上げていました。その中で熊本が中心になって進めている特色ある“子育て支援”について、産学官事業の要旨を報告します。

・各種子育て支援をNPO法人へ委託、指定管理者制度、次世代育成支援「地域における子育て支援」事業、九州北部5県子育て応援の店事業、子育て応援団実行委員会「子育て応援団すこやか2007」設立、熊本学園大学に子供家庭福祉学科オープンカレッジ開設、病院内に「子育て支援スペース」設置、育児支援タクシー普及、大学校内に子育て支援センターを設置 等々が紹介されました。

施策は多岐にわたり、今後の進展を期待して見守っていききたいと思います。

**“全国異業種ネットワークフォーラム第7回全国大会**

**In KOBE”、出張報告 池谷BC**

「産学官民の連携による、街づくり、地域づくり」分科会では、鳥取砂丘に世界の砂漠化を防止する研究活動（鳥取大）・アジアに目を向けて中小企業者同友会に60企業が結集した研究活動に学官が協力（福岡・FAST）・薬剤師と三重大学の連携で新しい健康食品を生み出そうとしている三重県のメディカルバレーの取り組み（三重県）・大学農学部との協力で廃小学校の校舎をパン工場にしての雑穀パンの製造販売（岩手大）・1～2週間学生を企業に入れてビジネスプランを作らせ企業に提出する学生提案型事業に17企業が参画している（兵庫県立大学）等の活動が報告された。一方 大学側のテクノプッシュでは無理で大学が専門を外れてニーズに対応することが連携だがこれが今後の課題（北海道大）との指摘もあった。またコミュニティービジネスの活性化では、権限を持ったまちづくりプロジェクターが不足しているため、人材育成が必要（東京北区）等の報告があり、キーマンの存在によって成果が期待できると思いました。

**お詫び！**出張報告原稿は詳細を綴った長文でしたが、紙面の都合で縮小させていただきました。詳細に興味ある方はご連絡ください。小野川

**産学官交流サロンのコーナー**

**第18回横須賀サロンの開催案内**

**日時:**1月18日(木)18:00～20:30  
**場所:**神奈川新聞社・横須賀支社 5F会議室  
**テーマ:**“あなたの町の発明家” スピーカ:マグロ縄工房・谷美佐男氏、(株)電幸社社長・一ツ谷 幸男氏  
**会費:**1,000円(ビールとおつまみ付き)  
**連絡問合せ:**八幡 045-633-5142, 鶴野 046-836-6785

**第17回川崎サロン開催案内**

**日時:**H19年1月16日(火)18:00～20:00  
**場所:**神奈川サイエンスパークKSP西棟 7階703会議室  
**スピーカ:**KSP取締役・志茂武氏  
**会費:**1,000円(ビールとおつまみ付き)  
**連絡問合せ:**T045-633-5142 F045-633-5194 芝、渡部

**第6回西湘サロンの開催案内**

**日時:**1月15日(月)18:00～20:00  
**場所:**あいおい損保小田原支社(瀬戸ビル)3F会議室  
**スピーカ:**小田原おでん会会長・田代勇生氏  
**会費:**1,000円(ビールとおつまみ付き)  
**連絡問合せ:**T045-633-5142 F045-633-5194 芝、島津俊之

**第5回西湘サロンの報告**

島津俊之BC  
 丹沢の地酒について中川酒造社長・鍵和田金吾氏から、「御酒の起源と飲酒様式の歴史」「日本酒の種類・製造品質表示基準」「きき酒」についてのお話が続き、出されたお酒も程好くまわり、夜の深けるのも気が付かない状況で、暖かく華やかな宵でした。

**おなじみ尾上町サロン(通称ワンコインバー)**

地道に続いていますよ！連絡は特にいりません。プラッとお出でください！（今回は参加費2,000円です）

**日時:**毎月第一・三金曜日ですが**12月15日は、異業種交流団体合同交流会の懇親会と合体して開催**いたします。  
**場所:**異グ連事務所神奈川中小企業センター5F産業交流プラザ **問合せ:**芝、八幡、島津龍、島津俊、鈴木

**’06異業種交流関連団体・異業種グループ事務局長会議合同企画 異業種交流団体・合同交流会**

常日頃、各種イベントで共同開催を行っている異業種交流関連団体と、異グ連の定例事務局長会議参加グループが合同交流会を開催いたします。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。

〔日時〕 **12月15日(金)午後2時30分～5時 懇親会 午後5時15分～**

〔会場〕 報告討論会 中小企業センタービル6F大研修室 懇親交流会 中小企業センタービル5F産業交流プラザ

〔会費〕 懇親会 2,000円(おいしいお酒とおつまみの現物支給は大歓迎) **〔参加資格〕 どなたでも歓迎です。**

〔内容〕 各グループ報告と出席者との討論 **テーマ:「今年の活動報告と来年の展望について」の討論会**

〔協力〕 神奈川県異業種グループ連絡会議、神奈川県中小企業団体中央会、神奈川県中小企業家同友会、C&Sグループ、(社)神奈川県経営診断協会、(独)国際協力機構、横浜国際センター(JICA横浜)、(社)山北工業クラブ、とつかボククラブ、サポートクラブ友の会、朋友クラブ、その他異グ連事務局長会議参加グループ

〔問合せ〕神奈川県異業種グループ連絡会議 Tel.045-633-5142 FAX045-633-5194 芝、八幡、島津龍男、島津俊之、杉本

## かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況

### 第69回日韓ビジネス協議会(11月24日)の報告

高橋BC

今回は、異グ連がJICAから研修を委託されているアルメニア人研修生5名が参加され、3名が懇親会にも参加されました。図らずも3国交流会となりました。

- (1)韓国企業紹介／日本現地法人名(有)コッデ／機能化粧品について…代表取締役 宋 重佛氏  
 ・韓国本社は(株)コッデで2005年6月設立している。拠点は日本および米国でアンチ・エイジング製品、美白製品、スペシャル・ケア製品、皮膚保温製品、皮膚沈下製品などを販売している。  
 ・皮膚を健康で美しい皮膚に戻すために皮膚専門家の高い技術の処方されている。安全性が認められ、生物学的に厳選された原料を使用している。ステライトを全く使用してなく、長期間使用しても皮膚の副作用がない。 (2)「行政書士の業務について」／林行政書士事務所… 所長 林 良浩氏
- (3)「韓日FTAについて」／駐大韓民国横浜総領事館…領事 姜 明逸氏  
 ・1998年からはじまった韓日FTA交渉は難航している。2004年日本の農水産物に関する譲歩、提案がないまま打ち合わせが頓挫している。今回のAPECで双方がFTA交渉再開を認めている。  
 ・12月に再度下位レベルで検討をはじめの予定であるが成り行きが注目される。韓米FATも難航しているが、この状況にも左右される見とおしである。  
 ・韓国は同時多発的に交渉を展開する。また巨大先進経済に重点を置いて進行する。締結国:チリ、シンガポール、EFTA(4カ国)交渉中:米国、カナダ、メキシコ、インドなど14カ国である。
- (4)基調講演:「事故発生時の原因究明について」／MIC総合事務… 所長 福田祐二氏  
 ・企業にとっては事故が発生した場合、その原因究明と再防止策に可及的速やかに行動しなければならない。  
 ・事故発生業務の特定、事故要因の特定、思考因子の特定、主因および副因の特定、5-WHY法による真因の追究、再発防止策の検討と立案、対策案の実施と定着化などのステップ・手順によって解明する必要がある。  
 ・2度と同じ事故を起さないという決意の元で、真剣に徹底的な議論と反省を行うことが原因追求技術よりも重要事である。 協議会への問合せ:TEL045-311-0094 高橋迄 MAIL:[mtakahas@tb3.so-net.ne.jp](mailto:mtakahas@tb3.so-net.ne.jp)

### 第9回・国際交流支援協議会

岡田会長

今回は今年最後の国際交流クリスマスパーティーを企画いたしております。1年間の活動を振り返り、来年度のエネルギーにつながる国際交流会となることでしょう。皆様のご参加、お待ちしております。

**日時:12月16日(土)18時～**

会費:2000円+2人分のドリンク

場所:横浜市中区真砂町4-43木下商事ビル8階 横浜留学センター内

問合せ申込:e-mail:[ycrc@ies-world.com](mailto:ycrc@ies-world.com)

fax:045-633-5184 担当岡田めぐみ

氏名、会社名、TELご連絡ください。

### シフト21

有村BC

「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループで、業種・業態を問わない幅広い交流を目的として、原則第二火曜日に定例会を開催しています。

**12月定例会(12月12日)**は山田技術士事務所 山田 次敏氏に「商品開発のコツ～コロブスの卵」を狙え!というテーマで、ものづくり企業の成功事例をお話いただきます。

**1月定例会は1月9日(火)18:30～**「自社ホームページのチェック方法(予定)」というテーマでかながわ県民センターで開催予定です。

シフト21ではゲストの皆様の参加を歓迎しております(初回参加は無料)。お問い合わせは有村までお願いいたします。

### まんてんプロジェクト最近の話題

千田BC

●10月4日、長岡市の「パイプ長岡」で(財)にいがた産業創造機構が主催する「にいがた産業技術交流展」にまんてんプロジェクトが出展した。新潟県知事も航空宇宙ビジネス参入支援に関心があり、将来連携の可能性があるので出展したが、既にまんてんの知名度が高いことが判った。

●経済産業省の助成金を受けた「まんてん EDI プロジェクト」に関し、受発注企業のヒアリング調査を進めている。

●10月16日から JASPA 営業本部を「JR 東神奈川徒歩7分の地」に設け、日常業務を執行する新体制を発足させた。本社、および測定装置は従来どおり上菅田町のままである。交通の利便性の向上と営業の強化を図るため。

●10月24日が締め切りの特区、規制緩和と提案に関連し、まんてんプロジェクトのメンバーである水上飛行機開発事業協同組合が(社)日本ニュービジネス協議会と共同で内閣府にたいし、離島や過疎地の経済をスカイスポーツにより活性化するために、これら地域において超軽量級動力機(ULP)が比較的自由に飛行できるように飛行制限を緩和する特区の設定を提案した。内閣府にて採用され、担当の国土交通省に検討が依頼されることとなった。この情報は、首相官邸のHPに公開されている。

●関東学院大学から委託された調査を行う航空宇宙産業研究会の第2回会合を10月31日に開催した。調査の詳細を決定し、11月からアンケート、ヒアリングなどを実施することとなった

**主張****美しい国日本の敵**

C&amp;S会長 村上嘉男

本年度も世間を賑やかしている腹の立つ出来事として、先ず最初に思い浮かべるのは善良な日本人を拉致し、いまだ抑留したままの北朝鮮がその筆頭に挙げられる。これほど騒がれているのにまだ朝鮮総連の建物の不動産税を減免している自治体が50数箇所あるそうで一体何を考えているのか理解に苦しむ。

最近のニューフェースとしては汚職で摘発を受けている県知事や政府が主催するタウンミーティングでのやらせの問題、また出席する閣僚の会場への案内担当の経費、会場まで歩いて5分の距離のハイヤー（静岡で乗るのに東京から呼び寄せた）の経費57万円、いずれも我々庶民感覚から大きく逸脱した金の使いっぷりに唖然とするばかりである。

問題はそれらの見積もりを出す大手広告代理店のずうずうしさとそれを容認する政府の支払い担当者がぴったりと息を合わせている点はただただ感心するのみである。国会で経費の無駄遣いについて追及されても複数の見積もりを取った上で一番安いのを選択したまでとしゃあしゃあと質問の本質をずらした回答振りにはあきれ返る次第で、これこそ今まで気が付かなかった内なる新たな敵のようである。

長期欠勤の自治体の職員やその上司などこれに類似した問題はおそらくはいて捨てるほどあり、これらの内なる敵の情報を公開しつつ、継続して撲滅することが必要である。

**地球環境への憂い****イースター島の悲劇(と会社の寿命)**

吉池正樹BC

環境破壊の典型的な例として「イースター島の悲劇」が、新聞やテレビで取り上げられて話題になっていることが、環境マネジメントシステム認証登録の審査の席で出た。環境については仕事上、普通の人よりは多少余分に勉強しているつもりであるが、これについては初耳であった。そこで図書館に行った機会に調べてみた。

イースター島は巨大な石像モアイが有名で、世界遺産にも登録されている。ところが、この島は高い木がほとんど無く、荒涼たる草地が広がっている。島は南半球ではあるが、緯度的に見て沖縄とほぼ同じ位置にあり、大島の約2倍の広さである。今から約1600年前、西暦400年ごろ、ポリネシア人が大きなイカダで移り住んだ当時は、亜熱帯性の樹木に覆われ、ヤシ等の食料や、燃料に使う木々も豊富で、生活に困ることは無かったという。従って人口も増えていった。西暦1200年から1600年の間には、人口が7千人程度までになっていたと推定されている。

この島の沼の堆積物で調べると、人口増加とともに西暦800年ごろから森林の破壊が始まり、ヤシの木が減少し始め、1400年代初めにはヤシは絶滅し、燃料になる木もほとんど無くなってしまい、完全な森林破壊が起きていた。人々は菜園、カヌー、燃料等を作るために木をどんどん切り倒していったのである。また野生の生物はほとんど絶えてしまっていた。人々は食料に困り、ついには部族間の争いに発展し、最後には人肉をも口にするようになっていたという。ヨーロッパ人がこの島を発見し、訪れるようになった1700年代から1800年代には人口はおおよそ2千人になっていたと推定されている。

ではなぜこんなになるまで人々はこの島に暮らしていたのだろうか、ここから筆者の推定を含め記述する。まず島民は島の環境変化に気が付いていたのであろうか。おそらく長い期間に木々が切り倒され、野生生物が減少していく環境変化は、人間の生きている期間に比べて、ゆっくりしたものであり、ほとんどの人が、自分たちの生活が出来なくなるまで、気が付かなかったものと思われる。また気が付いた少数の人の意見は、おそらく、平穩を乱すものとして為政者に無視されたに違いない。この島は一番近い島でも2200キロメートル離れている。おおよそ北海道稚内から沖縄までの間、島一つない海を渡るには、相当大きなカヌーが必要となるが、気が付いたときには、カヌーの材料となるヤシの木が既に切り倒されて一本も無く、食糧難の島から逃げ出すにも逃げ出せず、「イースター島の悲劇」といわれる状況になっていったものと思われる。(いわゆる茹で蛙現象である)

そしてこれは1900年に17億人足らずであった世界人口が2004年には63億人を超え、さらに増え続け、環境破壊を起こしている地球に良く似ているというものである。

ところで20年くらい前であったらうか、「会社の寿命30年説」が日経ビジネスの誌上に載っていた。正確には覚えていないが、多くの企業は経営環境の変化に気が付かず、また気が付いても対策がとれず、30年も経つと倒産、吸収等されてしまうというものであったように思う。これは期間こそ違いますが、「イースター島の悲劇」に良く似てはいないだろうか。

筆者は中小企業診断士の仕事で、中小企業を訪問する機会が多いが、元気な企業に共通的に言えることは、①市場や、技術の変化に敏感であること、②事業機会を実現するために、他人にまねのできないコア技術や人材を育てていること、③中小企業に不足する経営資源を産学連携、企業間連携、補助金、公的資金等で上手に補っていること等であったが、「イースター島の悲劇」と「企業の寿命」を対比してみた時、あらためてこれを認識した。

以上